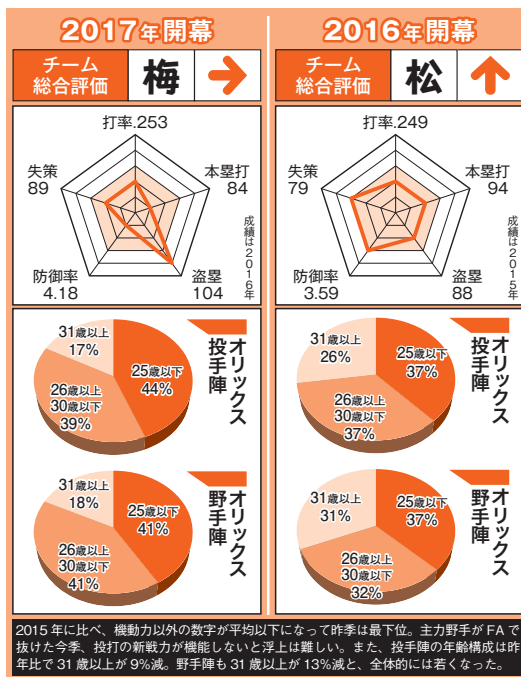




バオリックス・ ファローズ



チームバランス

最下位からの脱出を目指すオリックス。14年に僅差で2位となつたあとの大型補強が裏目に出て

一昨年の大型補強の失敗以降、低迷続き2016年も最下位に沈む実績のある投手、助っ人外国人打者が活躍すれば、チーム状況好転

以来、低迷が続いている。

昨年も新たに獲得した外国人が機能せず、内野手のモレル以外は解雇。オフにはFAの糸井嘉男が抜けて、穴埋めも含めて4人の新

年齢・ポジションによるチーム構成

	投手		捕手	内野手		外野手	
	右	左	右打	右打	左打	右打	左打
~20	(19)山崎翼一郎 山本由伸 榊原翼◇ (20)佐藤世那 鈴木優 吉田凌	根本薫			(19)岡崎大輔		
21	佐野皓大	齋藤綱記			宗佑磨		
22	山岡泰輔		若月健矢	奥浪鏡 園部聡			吉田雄人
23	青山大紀 黒木優太 澤田圭佑 神戸文也◇		(左打)中道勝士◇			武田健吾 張奕◇	
24		塚田貴之		大城滉二 ジョージ◇			駿太 吉田正尚
25	小林慶祐 塚原頌平	山崎福也	赤松幸輔◇				
26	近藤大亮	山田修義		鈴木昂平		杉本裕太郎	
27	赤間謙 金田和之 高木伴 西勇輝 角屋龍太◇	松葉貴大 八木亮祐	飯田大祐 伏見貴威		西野真弘 坂本一将◇		
28	東明大貴 吉田一将		伊藤光				小田裕也
29	ウエスト 戸田亮◇	(サ)大山暁史		安達了一		ロメロ	(左投)Tー岡田
30	ヘルメン	海田智行		綿田拓弥 モレル	小島脩平		
31	佐藤達也				岩崎恭平	宮崎祐樹	
32						川端崇義	
33	ディクソン 平野佳寿						
34	金子千尋						
35~	(35・サ)比嘉幹貴 (36)岸田護	(35)コーク	(35)山崎勝己	(35)中島宏之 (37)小谷野栄一			

◎=両打、☆=一塁手、サ=サードスロー、下線=2016年ドラフト選手、◇=育成選手、太字=外国人選手。
年齢は2017年の満年齢としています。(情報は2017年2月15日現在)

2017 プロ野球12球団選手名鑑

北海道日本ハム
ファイターズ

福岡ソフトバンク
ホークス

千葉ロッテ
マリーンズ

埼玉西武
ライオンズ

東北楽天
ゴールデンイーグルス

オリックス・
バファローズ

首脳陣

1 軍

監督	福良 淳一	78
ヘッドコーチ	西村 徳文	77
投手コーチ	星野 伸之	71
	平井 正史	72
打撃コーチ	高橋 光信	73
	下山 真二	74
内野守備走塁コーチ	風岡 尚幸	76
外野守備走塁コーチ	中村 一生	86
バッテリーコーチ	鈴木 郁洋	82
ブルペン担当	別府 修作	90

2 軍

監督兼打撃コーチ	田口 壮	81
ヘッドコーチ	佐竹 学	75
投手コーチ	小林 宏	89
	小松 聖	88
打撃コーチ	辻 竜太郎	79
内野守備走塁コーチ	勝呂 壽統	83
外野守備走塁コーチ	早川 大輔	84
バッテリーコーチ	前田 大輔	87
育成統括コーチ	弓岡敬二郎	85
育成コーチ	酒井 勉	80
	三輪 隆	70

野球太郎のお薦めオーダー

お薦めオーダー	予想先発
1 2B 西野※ .264	金子 3.83
2 SS 安達 .273	西 4.14
3 RF 吉田正※ .290	ディクソン 4.36
4 LF T-岡田※ .284	松葉※ 3.26
5 1B モレル .244	東明 4.94
6 DH 中島 .290	山田※ 4.94
7 3B 大城 .224	山岡 D1位
8 C 若月 .227	
9 CF 駿太※ .192	主なりリーフ
	塚原 2.67
主な控え野手	
C 伊藤 .241	海田※ 2.78
C 山崎 .152	吉田一 2.66
IF 小谷野 .249	佐藤達 5.01
IF 小島※ .246	ヘルメン 5.31 (MLB)
OF ロメロ .235 (MLB)	比嘉 4.82
OF 小田※ .137	岸田 7.90
	平野佳=抑え 1.92

捕手は新人の飯田大祐が1軍キャンプ始動。内野は鈴木昂平も控える。外野のロメロは新外国人で、昨季3Aでは打率3割、20本塁打以上。また、投手陣に加わった新外国人のうち、左腕のワークは先発候補。右腕のウエストは中継ぎ候補だ。

外国人を獲得した。結局、助っ人頼みだが、少しづつ、近年のドラフトの成果も出てきている。

過去5年間で振り返ると、投手では12年1位の松葉貴大が先発、13年1位の吉田一将が救援で機能。野手では14年7位の西野真弘、15年1位の吉田正尚が上位打線に。さらに13年3位の捕手・若月健矢が、高校出3年目にしてレギュラー級となった。

そして、昨年のドラフトでは即戦力投手の山岡泰輔（東京ガス）を1位で獲得し、2位以降でも即戦力級の投手中心に素質ある高校生も獲得。育成がしっかりとできれば、徐々に好転していけそう。

投手陣

昨年は金子千尋が7勝9敗、防御率3・83と不振。まして西勇輝、ディクソンも防御率4点台で負け越しており、エースが復調しないと先発陣は苦しい。ただ、逆にエースらしさが戻れば一気の好転もあり、四番手以降の松葉貴大、東明大貴、山田修義も機能しやす。即戦力ルーキーの山岡泰輔にしてもそれは同じことだ。

救援陣は抑えの平野佳寿が軸。セットアップには成長を遂げた吉田一がハマリ、中継ぎは佐藤達也、塚原頌平、岸田護がいて、阪神から移籍した金田和之、新外国人

野手陣

人のヘルメンも候補。左は海田智行ひとりだが、さらに右では比嘉幹貴が復活できると大きい。

捕手は若月健矢が主力格に。昨季の盗塁阻止率・28.3は平均以上、捕手防衛率3・89はチームトップだった。一番手は伊藤光で、三番手に山崎勝己が控える。

昨季後半、低迷するチームの打線に明るい兆しが見えた。故障が癒えた1年目の吉田正が8月から42試合で10本塁打、打率・29.0と躍動。今年は開幕から3番に据えて、T-岡田、モレルとともにクリーンアップを形成したい。

モレルは初球の打率が4割5分以上、選球眼もよく、来日2年目の順応に期待したいところだ。

1、2番は西野、安達で一決まり。下位打線は、打撃が復調傾向にある中島宏之を6番。積極性があって右打ちができる大城滉二を7番に置き、8番は捕手の若月健矢、そして9番は駿太が適任。上位打線が実力どおりなら、糸井の穴は埋まるだろう。

守備は内野の要、西野と安達の二遊間コンビはリーグトップレベル。両サイドは無難に守れて、外野はセンターの駿太が鉄壁に近い。ライトに入る吉田正も好守だが、レフトのT-岡田は不安。

※=打者は左打、投手は左投、◎=両打者の記録は打率、投手は防御率です。